

# 伊勢参り歩いて20年

を迎える。現代の学生たちの知識や体感について危機感をもつたことが始まり。

これまで十九回の旅で、さまざまことを発見した。歴史街道はきわめて人間的な道、曲がりくねって村から村を訪ねるようにつくられていて、旅人の体力よりも沿道の人々の助けがあつて、はじめて長い旅が続けられるということを示している。人と人との交

【大石雅章鳴門教育大字教授】平成十三年十月、人の成長、それを育む地域文化の視点から「四国遍路」研究の意義を検討しようと、有志一同で「四国遍路八十八カ所の総合的研究」プロジェクトを立ち上げた。

十八カ所の社会的・文化的な役割を多角的に分析  
②四国遍路を支え、培つてきた四国地域の社会・文化・宗教の特質および地域間の交流などを解明  
③本学における四国遍路を題材とした教育の在り方を研究  
④小・中・高校の教材開発の研究。

次発表している。実績として山本貞美氏・南隆尚氏・「四国遍路(徳島編)の調査」、山本準氏・「四国八十八か所写し靈場」、河野通之氏・「ひきこもりの若者たちと集団歩き遍路」に参加して。また四国の大学にしかできない学術研究活動として ①重本哲也氏・「脇

「国府巡檢」の一環として、  
十六番觀音寺～十五番  
分寺～十四番常樂寺をはじ  
いて見学している。(3)

合わせた公開講座。三月  
末に五日間で一四〇キロ  
走破の計画中も、全学あ  
げての取り組みには至ら  
ない。

88 力所を総合的研究

# 伊勢参り歩いて20年

り上げた。まず伊勢への旧街道を正確に辿ること、昔の人と同じように一日八里くらい歩くこと、わらじ・菅笠・着物・杖など旅のスタイルもなるべく近づけることを原則とした。

これまで十九回の旅で、さまざまなことを発見した。歴史街道はきめめて人間的な道、曲がりくねつて村から村を訪ねるようにつくられていく。旅人の体力よりも沿道の人々の助けがあつて、はじめて長い旅が続けられるということを示している。人と人との交

流がある。  
街道はふれあいの場であると同時に、はるかかなたの文化や経済、情報を持もたらす道筋でもありますゲストとしてお越しいただいた奈良大学の鎌田道隆学長からお話を伺いたい。

た。多くの人が歩くこと  
で得た人間的な恵みや優  
しさを発見できる。車や  
電車に乗っていては見え  
ないものが、歩くことに  
よって見えてくる。

目的達成のため学際的視点からメンバーが構成され、学外の研究者、現職教員もプロジェクトに加わった。平成十四年三月から、メンバーの専門を活かして『四国遍路』の研究をすすめ、研究会などで順次発表している。実績として山本真美氏・南隆蔵氏・河野通之氏・『ひき』もの調査、山本準氏・『四国八十八か所写し靈場』、河野通之氏「『ひき』もの若者たちと集団歩き遍路」に参加して。また四国の大学にしかできない学術研究活動として①重本哲也氏「脇

キュラムはこれまで紹介されていないが、平成十四年度に非常勤講師によって「巡礼の歴史地理学」と題する集中講義が実施された。

「四国遍路」は、以下の授業で取り上げられる。①全学共通教育「隼人島を考える」の中で「四国遍路—巡ることの意味」②総合科学部基礎ゼミナール（一年生回）の体験学習、「（阿波）国府巡檢」の一環として十六番観音寺→十五番成分寺→十四番常楽寺を歩いて見学している③地域調査実習で、徳島市牛込大麻街道（真念道）沿いの古から一番靈山寺に至る尾道脇道標、石造物などを

る学生もいる。これまでの主なテーマは「歩き遍路の文化人類学的研究」「徳島県の遍路道における石造物の分布」「『もんなす』ことの意味－四国遍路における善根宿」。

本年度後期に、徳島大学開放実践センターが社会人向けに「空海と歩く－四国阿波遍路2004」を企画中。文化講座とウォーキングを組み合わせた公開講座。三月末に五日間で一四〇キロ走破の計画中も、全学あげての取り組みには至っていない。

徳島県教育委員会主催の「歴史の道」調査に参加、「徳島県の遍路道および沿道の石造物のデジタル地図」(GISお遍路マップ)を作成。

シンポ・四国遍路と大学教育

今春設立されたばかりの四国歩き遍路大学ネットワーク主催「シンポ・四国遍路と大学教育」が、七月十八日今治明徳短期大学で開かれ、四国遍路を教育に取り入れている四国の各大学から実践報告、続いた歩き遍路体験学習に参加した明徳短大生が体験を発表した。休憩はお接待タイム。二部に入つて約七十人の参加者も加わり、質疑された。以下は各大学の報告ならびに質疑の要旨。

後に向けて発展する  
いうことから  
パンツウムを全

今春設立されたばかりの四国歩き遍路大学不ツトワーチ主催「シンポジウム・四国遍路と大学教育」が、七月十八日今治明徳短期大学で開かれた。四国遍路を教育に取り入れている四国の各大学から実践報告、統いて昨年歩き遍路体験学習に参加した明徳短大生が体験を発表した。休憩は学生たちのお接待タイム。二部に入つて約七十人の参加者も加わり、質疑が交わされた。以下は各大学の報告ならびに質疑の要旨。



## 明徳短大で開かれたシンポジウム

## 阿波遍路の公開講座

の公開講座

庄訓一  
島田一  
ム」を開催、百名近くの  
参加者を得た。

今年一月には本学で「四  
国遍路研究・シンポジウ  
ム」を開催、三百人を超えた。  
参加者は三百人を超えた。

と六十六部」を開催、參  
加者は三百人を超えた。

町大師堂・大師講の調査」「後藤家文書（組庄屋）」にみる四国遍路など。  
昨年三月、本プロジェクト、巡礼研究会、徳島県立博物館の主催で、「巡

礼研究講演会・四國遍路と六十六部」を開催、参加者は三百人を超えた。今年一月には本学で「四國遍路研究・シンポジウム」を開催、百名近くの参加を得た。